

台風第6号に対する農作物等管理技術対策について

令和8年6月1日
埼玉県農林部

「埼玉県気象解説情報（台風第6号）第1号」（6月1日7時00分熊谷地方気象台発表）によると、埼玉県では前線や台風に向かって流れ込む暖かく湿った空気の影響で、6月3日（水）は警報級の大雨となる可能性があります。また強い風も吹く予報で、台風の進路や発達によっては、暴風となる可能性があります。

そこで、農作物等管理技術対策資料を作成しましたので、参考としてください。今後の台風の進路等の気象情報に十分注意し、早めの対応をお願いします。

（**前**：事前対策、**後**：事後対策）

また、高温・高湿下での農作業は、熱中症を引き起こしやすいので注意してください。

畑作、水田共通事項

安全第一とし、台風接近中や通過後に河川や用水路が増水している場合には、ほ場の巡回は避け、水位が下がった段階で被害状況を確認する。

- 前** 1 畑作ほ場では、排水路や暗きよの点検、必要に応じて排水溝の整備を行い、ほ場の停滞水に備える。
- 2 事前準備は台風接近前に終え、通過中は屋外での作業やほ場確認を避ける。
- 後** 1 安全を確認できるまでは増水した河川や用排水路に近づいたり、管理作業を行わない。
- 2 通過後、天候が安定したら、病虫害の発生を防ぐため薬剤防除を行う。

ハウス共通事項

- 前** 1 フィルムの破れ、支柱、支線、ターンバックルなどを点検・補修し、必要に応じて筋交いを入れるなど補強する。風で飛散する物がないよう周辺を整理しておく。
- 2 いちご苗等で利用する天井部のみを被覆するハウスは、入念に点検し対策を講ずる。
- 3 出入口、天窓、サイドをしっかりと固定し、隙間から風の吹込みを防ぐ。

- 4 大雨により施設内の浸水が心配される場合は、排水路の整備や出入口に土のうを設置する。
- 5 停電、浸水による漏電等が想定されるので、不必要な電源は遮断しておく。
- 6 換気扇をまわしてハウス内部を負圧にし、被覆材のバタつきを防ぐ。

後 1 台風通過後のフェーン現象により急激な温度上昇や乾いた熱風が吹く場合は、遮光資材やミストの利用、こまめな灌水によりハウス内の作物がダメージを受けないようにする。

水 稲

前 1 用排水路を点検し、水の流れに支障がないか確認する。

- 後 1 冠水した場合は、速やかに排水を行う。特に苗代の冠水には注意する。
- 2 ただし、台風通過後の乾いた強風をともなう場合は、風が収まるまで湛水状態を保つ。
 - 3 除草剤散布後、間もないほ場でのオーバーフローは、除草効果の低下につながるため、雑草が発生した場合には中期剤等の使用を検討する。

麦 類

前 1 刈取適期に達し、穀粒水分が 25%以下に低下している場合は、降雨前に収穫を行うよう心掛ける。

後 1 倒伏や穂発芽が発生した場合は、収穫時に刈り分けを行う等、良品生産に努める。

特に、赤かび病が発生しているほ場で倒伏が発生した場合には、収穫時に刈り分けを行い、乾燥・調製、一時保管、出荷まで、健全な麦と混合しないよう区分管理を徹底する。

野 菜

◎露地なす

前 1 強風に備えて、支柱や枝の誘引などについて点検・補強する。

後 1 停滞水にともなう根の活力低下が青枯病、半身萎凋病等の発生を助長するので、速やかに排水する。

- 2 台風通過後は、褐色腐敗病等が発生しやすいので、速やかに薬剤散布を行う。

- 3 風雨でキズなどが発生し商品価値が低下する果実は早く摘果し、草勢の回復を図る。

◎いちご

- 前
- 1 育苗ハウスの点検・補強を行う。強風による損壊を防ぐため、雨よけハウスではビニールを縛り上げる等の対策を行う。
- 後
- 1 育苗ほへの浸冠水は炭疽病や疫病の発生を助長するので、速やかな排水対策を行う。
 - 2 遮光資材を適宜活用して、台風通過後の急激な温度上昇・乾燥を回避する。
 - 3 風雨による損傷や泥はねにより炭疽病の発生拡大が懸念されるので、天候回復後速やかに薬剤散布を行う。

◎ねぎ

- 前
- 1 ほ場に水が停滞しないように明きょや排水路の整備・確認を行う。
 - 2 土寄せができる状態のものは、倒伏防止のため事前に土寄せを行う。
- 後
- 1 台風通過後の停滞水の温度上昇は、根腐れ及び軟腐病等の発病を助長するので、速やかに排水する。
 - 2 天候が回復次第、軟腐病・白絹病等を対象に速やかに薬剤散布を行う。
 - 3 収穫期のほ場では、高温多湿による軟腐病が拡大する前に、速やかに収穫し出荷を行う。その際、病株の混入は商品性を著しく損なうので、厳選に努める。

◎にんじん・かぶ

- 後
- 1 出荷間近なもので葉の損傷が軽いものは、出荷時の調製を十分に行い商品価値を落とさないようにする。
 - 2 損傷が軽く、収穫までに日数を要する場合は、病害の発生が懸念されるので、薬剤散布を行う

◎えだまめ・スイートコーン

- 前
- 1 倒伏防止のため対応できるほ場では土寄せ、スイートコーンの不要な雄穂の除去を行う。
- 後
- 1 強風により倒伏したスイートコーンは、作物体の立ち上がり回復を待って作業を行う。

- 2 えだまめではべと病等の発生が懸念されるので、天候回復後、速やかに薬剤防除を行う。

◎ほうれんそう、こまつななど軟弱野菜

- 後 1 葉の損傷等が見られた場合には、速やかに薬剤防除を行う。

果 樹

- 前 1 収穫できる果実は事前に収穫する。
- 2 棚や支柱、網などを点検・補強し、樹体や棚の揺れを少なくする。
 - 3 苗木は、主幹部の株元にビニールを巻くなどにより土はねを防ぐ。

- 後 1 葉・枝の損傷が発生した場合は、なしでは黒星病、疫病、胴枯病、ぶどうでは黒とう病、べと病、晩腐病の発生が懸念されるので、薬剤防除を行う。

花植木

- 前 1 排水対策を行うとともに、フラワーネット等の点検・補強を行う。

- 後 1 天候回復後、強光による日焼けを防止するため苗等は寒冷紗等で遮光する。
- 2 倒伏した株は引き起こして株元を軽く押さえ、噴霧器等で付着した土を洗い流すよう薬剤散布を行い、病害の発生を予防する。
 - 3 破損した茎葉は病害の発生源となることから速やかにほ場外へ搬出する。
 - 4 浸冠水した施設、資材等は必要に応じ消毒を行う。

茶

- 前 1 被覆棚の支柱・ワイヤーの緩みを点検し、被覆資材をロープ等でしっかり固定する。可能であれば、台風前に被覆を外しておく。
- 2 強風による防霜ファンの誤作動、故障防止のため、台風前に電源は切っておく。
 - 3 製茶工場の屋根・壁・排水設備を点検し、雨水が侵入しないように十分に点検する。

- 後 1 強風により葉ずれや葉いたみがあった場合には、速やかに殺菌剤を散布し病害の発生を防止する。
- 2 幼木園などで風により幹が回された株については、早めに土寄せや敷き草を行い、地際部や根の保護に努める。

3 茶工場、防霜ファン、被覆棚、茶園の法面などを点検し、必要に応じて修復を行う。

◎農薬はラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分確認の上、最終有効年月までに使用してください。

◎農薬の使用に際しては、以下のホームページで御確認ください。

・農林水産省 農薬登録情報提供システム

<https://pesticide.maff.go.jp/>

◎農作業中の熱中症にご注意ください。

<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0903/keieitai/nousagyouannzen/nettyuusyuu.html>